

NEUTRAL 通信 vol.11

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。

第 11 回目は NEUTRAL にて展覧会を開催中の吉田花子さん。

NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「 Season — 記憶に漂う季節 — 」

2023.11.4sat. - 11.26sun.



抽象画家

吉田 花子 / HANAKO YOSHIDA

1988 年 東京都生まれの吉田花子は、2012 年 成城大学文芸学部芸術学科 卒業。「Living with art」をテーマに日常の暮らしを豊かにしようとする作品を手掛けている。2014 年から現在まで「吉田花子展」をギャラリー Q(銀座、東京)にて定期的に作品を発表するほか、2022 年にはインテリアショップ ACTUS(青山本店)にて「吉田花子の抽象画の世界」を開催。2023 年はアートフェア「Kiaf SEOUL 2023」(COEX、ソウル)に参加するなど意欲的な活動を行う。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE

『Casa BRUTUS 9月号』で「こどもの本 100」が特集されています。『エルマーの冒険』や『スイミー』など著名な作品から、ショーン・タン『アライバル』、ミロコマチコ『みえないりゅう』など最近話題の絵本まで幅広く紹介されています。1階レジ前平台では、本書で紹介されている絵本から数点おすすめの絵本を販売しております。ぜひ雑誌と合わせてご覧くださいませ。

営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551



10月29日、SLOWPage2号店がイオンモールKYOTOにてオープンいたしました。当店とはフードメニューが少し異なっており、数種類のパニーニやパスタもお楽しみいただけます。また店内の本をご自由に手に取って読んでいただいたり、ライブの不定期開催も予定しておりますので様々なシーンにてご利用いただけるかと思えます。ぜひイオンモールKYOTOにお立ち寄りの際はご利用くださいませ。

営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

SHOKODO
KYOTO

現在、NEUTRALで展示中の吉田花子さんのアートブックを制作しました。原画をお預かりして校正刷を重ねて仕上がりしました。8シートの作品は東洋インキの広演色インキ「kaleido(カレイド)」を採用し、彩度のある原画に近づけることができました。またパールグロスニスを部分的に印刷していますので、じっくり見てください。

営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

NEUTRAL

[EXTRA-NEUTRAL]

progression II Tomide

2023.11.04sat. - 11.26 sun.

作家・Tomideが線と面で描いたたくさんの動物たちの絵を館内各所でご覧いただけます。主催：NEUTRAL 企画・協力：Gallery PARC

営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

Gallery PARC
GRAND MARBLE

ことづての声 / ソマの舟 ふるさか はるか

2023.11.04sat. - 11.26sun.

2017年より津軽・南部地方で山のひびととその手仕事を取材し、何気ないことばを聞き取りながら、版画制作に取り組むふるさかはるか。本展はその成果でもある作品集の出版にあわせ、木版画やピンホール写真などおよそ50点の作品で構成します。

営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休

堀川新文化
ビルディング
HORIKAWA
NEW CULTURE BLDG.
KYOTO

〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287

[アクセス]

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分

○京都市バス9番・12番・50番・67番系統

「堀川中立売」バス停下車徒歩1分

○駐車場・駐輪場あり

※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



——どんな子供時代でしたか？

生まれつき耳が悪くて、音のない世界にいたんです。まったく聴こえないわけではなくて、プールの中に入った時のような世界で生きていて、子供の頃の記憶にはあんまり音ってなくて。どちらかという地面に落ちている石ころだとか、葉っぱ、砂、虫や花とか目で見た記憶ばかり。誰かに呼ばれたり、何かを聞いたりした記憶がない分、物を見ていた時間が長くて、その結果絵のイメージが浮き上がってくる、ということにつながってくるのかなと思います。

音もない、慢性鼻炎で匂いもあんまりない、そして鼻が詰まっていると味覚も敏感ではなく…(笑)小さいときは本当に「視覚」だけで、活発というよりは自分の世界に入って、自分に近いものをずっと観察していました。

また、通っていた幼稚園がモンテッソリという教育方針で、運動が好きな子はお庭ゾーン、お絵かきがしたい子は鉛筆ゾーンと、自分がしたいことを好きな場所とする、という自由で個性を大事にする場所でした。私は常に鉛筆ゾーンにいて、考えてみれば、数ある選択肢の中で鉛筆を選んでいたのは、「お絵かき」が心地よいと感じていたのだと思います。すごく得意でもなく、将来画家になろうという強い気持ちもなかったけれど、自然に選ぶのは絵だったことは確かです。

——作家になろうと思ったきっかけはありますか？

学校は普通の共学で、美術の専攻もなく、美術部にも入っていません。小学校から大学まで一貫校で同級生はずっと一緒なのですが、その私を一番知っている同級生が、私が画家になったことに一番驚いていて、「いつから絵が描けるようになったっけ？」といわれるくらいのサブライズでした。

大学では美術史を専攻していました。インターンで若手作家の作品を公共の場所に展示し、地図を見ながら回れるというイベントに企画側として携わりました。これも社会勉強をしにくのに身近な場所を選んだというだけでした。画家の父とインテリアデザイナーの母の影響で、私にとっては、ギャラリー、美術館、デザイナーの家や建築事務所がとても身近だったのです。ただ、この企画に参加した際に、空間とアート作品がうまくマッチしていないのではと違和感を持つことがありました。そこで、もっと心地よくできる作品を、その場所のために、その人のためにつくりたい、と思ったのがきっかけで絵を勉強しはじめました。

——今の作風はどのように生まれましたか？

小さい頃から日常の中でピュッとおりてくるイメージや色を記憶して、そのまま描いています。はじめから完成イメージは決まっているので、それが他の方とは全然違うアプローチだと思います。また、はじめの頃はアクリル絵の具でしか表現する技術がなかったんですが、色々な技術を試していくなかで、建物や空間との調和や絵をみただけでわかるオリジナリティを確立したいと思っている時に、建材を使うことにたどり着きました。現在は建材に使うパテに絵具を混ぜて何層も塗り、へらで削り取って引き算で色を出しています。

——今の制作環境を教えてください。

建材を使うので、本当はきちんと倉庫のような場所で本格的な機械を入れ、換気をして作業しないとイケないんですが、実は家の一室なんかでやっていました。今は別の場所を借りて、その一部がアトリエになっていますが、そこも設備は十分でなく、作業中細かい粒子が飛ぶのでいくらマスクをしても粉塵が入ってきてしまう環境は今から改善したいと思っています。

——影響を受けた作家さんはおられますか？

全て先生だと思って勉強させてもらっています。

——見に来て下さるお客様へのひとこと

新作「Season」は8枚ありますが、季節をそのまま表現しているわけではなく、みなさんご自身で、心の奥底にある心象風景を思い出しながら、その時々で心地よいと感じる絵を選んで楽しんでもらいたいという想いがあります。自分と向き合う時間やゆったりする時間にぜひ使ってください。

今回制作したアートブックは、本自体が額装になっていて、アートを初めて日常生活に取り入れる人にも気軽に楽しんでもいただけるようになっていきます。その日の気分に合わせて心地よい絵を選んでもらって、家でも楽しんでいただきたいと思います。

自分の好きな本・雑誌

『日本の色辞典』 吉岡幸雄 紫紅社

『王朝のかさね色辞典』 吉岡幸雄 紫紅社

『一日一花』 川瀬敏朗 新潮社

『わたし大好き』 草間彌生 INFASパブリケーションズ

